

外国語科学習指導案

日時:令和7年 2月 25日(火)6校時  
 学校名:福岡市立柏原中学校  
 対象:1年4組 29名  
 指導者:JTE 矢野和樹  
 NS Liam Mullins

1 単元について

単元(題材)名	Unit8 Getting Ready for the Party (Here We Go!) 光村図書)		
学習指導要領に関連する 領域別目標	目標(2)読むこと ア 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。		
単元(題材)の目標	現在進行形を用いたスキットの脚本をグループで考え、読み方を工夫しながらその場面を演じることができる。		
生徒の実態	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	自分のことや身近なものについて短文を書くことはできるが、文法構造や語句については正確さに課題がある。	マッピング*資料1やマンガラート*資料1などの思考ツールを活用することができる。一方で、まとまりのある文章を書いたり話したりすることに課題がある。	授業で習った表現を活用して、文章を書いたり話したりしようとしている。一方で、書き方が分からないため、自分の思いを正確に書けずに苦しむ生徒もいる。
単元(題材)設定の理由	<p>(1)生徒観                  11月にとったアンケートでは、9割以上の生徒が英語を学ぶことに前向きな姿勢を持っていることが分かった。4技能については、「書くこと」「読むこと」は得意に感じている一方、「話すこと」「聞くこと」に苦手意識を感じている生徒が多いことが分かった。                  そこで、2学期の終わりからマッピングやマンガラートなどの思考ツールを活用して即興でやり取りをする活動を継続して実施している。本単元においてはスキットを演じるを通して、生徒が生き生きと「話すこと」を楽しみ、さらなる自信を付けられるよう働きかけたい。</p> <p>(2)教材観                  本単元の主な新出文法事項は、現在進行形である。教科書の Goal は登場人物の Picture Description(登場人物の絵を選び、何をしているか現在進行形で説明する)である。                  そこで、題材を生徒にとってよりわくわくしたものにするため、スキット作りに変更した。現在進行形の、今止められない状況にあるということ、相手から見えないということのポイントにして、生徒がスキット作りに取り組めるよう仕組みたい。また、NS の出身は劇の本場イギリスであり、目の肥えた NS をうならせるような脚本作りを目指すこ</p>		

<p>単元(題材)設定の理由</p>	<p>とで、単元を通してNSの必要感を感じられるよう展開したい。</p> <p>(3)指導観 2学期の終わりから、マッピングやマンダラートなどの思考ツールを活用して、即興でやり取りする活動を実施している。その際、負荷をかけるため、ノートやワークシートを見ずに話す指導を行うよう留意している。結果として、何も見ずに即興でやり取りすることに生徒が自信を付けてきている様子が伺える*資料2。</p> <p>また、スキット作りでは生徒が自分で展開を考える必要があるため、帯学習でまとまりのある文章を作る練習を重ねている*資料3。具体的には、discourse marker(But・Because・So)を用いて、教師が提示した一文に続く文を考える活動をしている。その際、正確性を向上させるため、ワークシートを毎回集め、添削を行い、次に活かすことができるようにしている。</p>		
<p>単元(題材)の評価規準</p>	<p>知識・技能</p> <p>・現在進行形を用いた文の特徴やきまりを理解している。 ・現在進行形を用いて書いたり話したりする技能を身につけている。</p>	<p>思考・判断・表現</p> <p>現在進行形を用いながら、事実や自分の考えを整理して、聞き手に分かりやすく伝えることができる。</p>	<p>主体的に取り組む態度</p> <p>既習の知識を積極的に用いながら、間や表情、ジェスチャーを工夫して、こだわりを持ったスキットを作ろうとしている。</p>

2 単元の指導と評価の計画(全10時間)

時間	学習内容 学習過程等	【評価の観点】 評価規準	<p>のりしろ(◇) 学習課題(■) 主な学習活動(○)</p> <p>※指導上の留意点</p> <p>単元の中で「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現を目指す主な場面</p>
<p>第10時</p>	<p>グループでスキットを発表する。優れた発表をしたグループに投票する。(NSとのTT)</p>	<p>【読むこと】 場面に合わせて読み方を工夫することができる。</p>	<p>◇発表を楽しみにしていることをNSが伝える。</p> <p>■最終確認を行う。</p> <p>①これまでもらったアドバイスを参考に、各グループで発表の最終確認をする。</p> <p>■発表を行う。</p> <p>※good listenerが演者のパフォーマンスを引き出すことを再確認し、全員が安心して自己表現できる雰囲気醸成する。</p> <p>②前に出て、各グループがスキットを発表する。</p> <p>③発表が終わる毎に、聞き手は評価用紙*資料4に評価を記入する。</p> <p>④優れた発表をしたグループを1組選び、投票する。</p> <p>※投票は全員顔を伏せて、挙手制で行う。</p> <p>⑤NSの選んだ優秀賞と、クラスメートの選んだ優秀賞を発表する。</p> <p>⑥NSとJTEがそれぞれ講評を行う。</p> <p>※スキットの面白さ、間の取り方、行間の読み取り方を観点として講評する。また、2年生でも教科書本文に自分でト書きを書き入れるよう促す。</p> <p>■振り返り*資料5を書く。</p> <p>◇2年生になっても今単元で学んだように読み方を工夫するよう</p>

			NSが促す。		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
第9時	発表内容を改善し、練習を行う。	【読むこと】 場面に合わせて読み方を工夫することができる。	<p>◇前時のリハーサルで感じたことをグループで再確認するよう伝える。</p> <p>■リハーサルの経験を活かして発表内容を改善する。</p> <p>①発表の評価項目(スキットの内容・演技・声の大きさ)について再確認する。</p> <p>②前時で撮ったビデオを見ながらグループで取り組むべき課題を話し合い、改善を図る。また、劇の内容を加筆修正する。</p> <p>③各グループでバージョンアップした劇の練習を行う。 ※JTEは各グループを巡回し、適宜助言を行う。</p> <p>④隣のグループと演技を見せ合い、アドバイスをし合う。 ※この時点までで、スローラーナーたちも何も見ずに自信を持って演技ができるようになっていることを目標とする。</p> <p>■振り返りを書く。</p> <p>◇次時に発表用の小物を持ってくるよう伝える。</p>		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
第8時	リハーサルを行う。	【読むこと】 場面に合わせて読み方を工夫することができる。	<p>◇発表の評価項目を再確認する。</p> <p>■最終確認を行う。</p> <p>①前時にもらったアドバイスを参考に、発表の最終確認を行う。</p> <p>■リハーサルを行う。 ※ビデオで自分のグループを撮影するよう伝える。</p> <p>②各グループでスキットを発表する。</p> <p>③リハーサルをしてみて感じたことをグループで話し合う。</p> <p>■振り返りを書く。</p> <p>◇各グループから、次回の最終練習で頑張りたいことを発表する。</p>		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
第7時	配役を決めて、場面を演じる練習をする。	【読むこと】 場面に合わせて読み方を工夫することができる。	<p>◇発表の評価項目を全体で確認する。</p> <p>■グループでオリジナル脚本を演じる練習を行う。</p> <p>①各グループで配役を決める。</p> <p>②探求コーラル・マップ<sup>*資料1</sup>を片手に場面を演じる練習を行いながら、劇の内容を加筆修正する。</p> <p>■振り返りを書く。</p> <p>◇次時にリハーサルをすることを伝える。</p>		
			主体的な学び	対話的な学び	深い学び
第6時	マンガラートやマッピングを用いて、脚本を作り上げる。	【読むこと】 現在進行形を含んだ簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要をつかむことができる。	<p>◇Teacher Talkで前時までに学んだことを想起する。 ※発表用のグループの座席に座りなおす。</p> <p>■現在進行形を含んだ文章を読み、内容を理解する。 ※『SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 (開隆堂)』 Program9(P.91・93・95)<sup>*資料6</sup>を脚本の参考にする。</p> <p>①個人で黙読する。</p> <p>②Q&amp;Aを行いながら、全体で内容を把握する。 ※現在進行形が答えとなるQ&amp;Aを行う。 (例)T: Why can't Aiko answer the phone? S: Because she's putting on kimono.</p> <p>③本文のプリントにト書きを書き込む。</p> <p>④グループでスキットを演じる練習をする。</p>		

			<p>■マンダラートを用いて脚本を考える。</p> <p>⑤マンダラートで誰が何をしている場面にするか脚本を考える。</p> <p>⑥グループで脚本を持ち寄り、探求コーラル・マップに考えを整理する。</p> <p>■振り返りを書く。</p> <p>◇次時から配役を決めて場面を演じる練習をすることを伝える。</p>			
			<table border="1"> <tr> <td>主体的な学び</td> <td>対話的な学び</td> <td>深い学び</td> </tr> </table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び				
第5時	劇を演じることを体験する。	<p>【読むこと】</p> <p>場面に合わせて読み方を工夫することができる。</p>	<p>◇Teacher Talk で前時に学んだことを想起する。</p> <p>■本文の概要を理解する。(P.124)</p> <p>①新出単語を確認した後、個人で黙読する。</p> <p>②Q&amp;A を行いながら、全体で内容を把握する。</p> <p>③教科書にト書きを書き込む。</p> <p>④グループで場面を演じる練習をする。</p> <p>⑤他のグループと劇を見せ合い、アドバイスをし合う。</p> <p>⑥アドバイスを参考にして、再度グループで練習する。</p> <p>⑦代表のグループが全体に発表する。</p> <p>■振り返りを書く。</p> <p>◇次時からオリジナルの脚本作りを始めることを伝える。</p>			
			<table border="1"> <tr> <td>主体的な学び</td> <td>対話的な学び</td> <td>深い学び</td> </tr> </table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び				
第4時	教科書本文を読み、スキットに取り入れる表現の参考にする。(NS との TT)	<p>【話すこと】</p> <p>“look+形容詞”を含んだ簡単な文を用いて、まとまりのある文章を即興で話すことができる。</p>	<p>◇本文 Part2 の場面をグループで演じる。(授業前の帯活動)</p> <p>■look+形容詞の使い方について理解する。</p> <p>①JTE と NS の Small Talk を聞く。</p> <p>②学校の先生方の写真を見て、表情からその理由や先生のために自分がしたいことなどを考え、ペアで説明する。</p> <p>■look+形容詞を用いてスキットを作る。</p> <p>③JTE と NS のモデルを聞く。</p> <p>④マッピングでスキットの展開を考え、ペアで内容を話し合う。</p> <p>⑤ペアでスキットを練習する。</p> <p>⑥グループ内で発表を行い、代表を決める。</p> <p>⑦各グループの代表が全体に発表を行う。</p> <p>⑧look+形容詞について教師の説明を聞く。</p> <p>⑨スキットの内容をノートに書く。</p> <p>■振り返りを書く。</p> <p>◇次時で扱う本文の内容について予告を行う。</p>			
			<table border="1"> <tr> <td>主体的な学び</td> <td>対話的な学び</td> <td>深い学び</td> </tr> </table>	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
主体的な学び	対話的な学び	深い学び				
第3時	教科書本文を読み、スキットに取り入れる表現の参考にする。	<p>【読むこと】</p> <p>現在進行形を含んだ簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要をつかむことができる。</p>	<p>■まとまりのある文章を作る練習をする(授業前の帯活動)</p> <p>①JTE が提示した一文に続く文章を考える。</p> <p>(例) I didn't do my homework yesterday because I visited my grandparents in Saga.</p> <p>②ペア、全体で共有する。</p> <p>◇前時までに学習した内容を Teacher Talk で想起する。</p> <p>■本文の概要を理解する。(P.122)</p> <p>③新出単語を確認した後、個人で黙読する。</p> <p>④Q&amp;A を行いながら、全体で内容を把握する。</p> <p>⑤教科書にト書きを書き込む。</p> <p>⑥グループで場面を演じる練習をする。</p> <p>■振り返りを書く。</p>			

		◇次時にオリジナルのスキットを作る練習をすることを伝える。		
		主体的な学び	対話的な学び	深い学び
第2時	教科書本文を読み、スキットに取り入れる表現の参考にする。(NSとのTT)	【読むこと】 現在進行形を含んだ簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要をつかむことができる。	<p>■まとまりのある文章を作る練習をする(授業前の帯活動)</p> <p>①NSが提示した一文に続く文章を考える。 (例)I'm studying now because I didn't do my homework yesterday.</p> <p>②ペア、全体で共有する。</p> <p>◇Teacher Talkで前時までの学習内容を想起する。</p> <p>③NSとJTEの会話をメモしながら聞く。</p> <p>④聞き取った内容をペアの相手に報告する。</p> <p>■NSがスライドで本国イギリスの劇の文化を紹介するとともに、単元課題を再確認し、発表を楽しみにしていることを伝える。 (例)劇場や作品について、写真や動画を交えて紹介する。</p> <p>■本文の概要を理解する。(P.120)</p> <p>⑤新出単語を確認した後、個人で黙読する。</p> <p>⑥Q&amp;Aを行いながら、内容を全体で確認する。</p> <p>⑦教科書にト書きを書き込む。</p> <p>⑧ペアで場面を演じる練習をする。</p> <p>■振り返りを書く。</p> <p>◇NSが次時の本文の内容につながる推論発問を行う。 ・Where is Tina?</p>	
		主体的な学び	対話的な学び	深い学び
第1時	単元課題を知る。現在進行形の形・働きを知る。	【話すこと】 現在進行形を含んだ簡単な文を用いて、まとまりのある文章を即興で話すことができる。	<p>■まとまりのある文章を作る練習をする(授業前の帯活動)</p> <p>①JTEが提示した一文に続く文章を考える。 (例)I like winter. But I don't like winter homework.</p> <p>②ペア、全体で共有する。</p> <p>◇前単元の学習内容を、Teacher Talkを聞いて想起する。</p> <p>■単元課題「リアム先生を感心させるスキットを作ろう」を知る。 ※NSが劇の本場イギリス出身で、演劇が大好きなことを知る。</p> <p>■教科書の扉絵(P.118・119)を使って、現在進行形の導入と練習を行う。</p> <p>③扉絵を見ながら、JTEとやり取りをし、現在進行形の文の使い方を学ぶ。</p> <p>④扉絵を1分で覚える。その後、教科書を閉じ、登場人物がしていること等についてJTEがクイズを出題する。</p> <p>⑤現在進行形の説明を聞き、扉絵を使って、英文をノートに書く。 ※ノートを回収して、添削する。</p> <p>■振り返りを書く。</p> <p>◇NSが発表を楽しみにしていることを伝える。</p>	
		主体的な学び	対話的な学び	深い学び

3 本時(第4時)の目標

“look 形容詞”を含んだまとまりのある内容を即興で話すことができる。

4 本時の展開 **茶**が教師主導の指導、**青**がペアやグループ活動、**黄**が個人の活動である。

教師と生徒の「やり取り」の場合、**教師主導**の色の下に**やり取り**を青く表示している。

なお、青色であっても**個人の活動**を含む場合がある。

段階	学習内容	教師の役割		※指導上の留意点
		JTE	NS	◆評価【観点】(評価方法)
授業前	0. <b>Warm Up</b> (3) ①グループで配役を決め、前時の学習を思い出しながら、本文Part2を演じる練習をする。	・机間指導を行いながら、モデルとなるグループを見つける。	・机間指導を行い、本文の内容が十分表現できていない場合は、改善のヒントを与える。	※学習カルテ(座席表に教師の気づきをメモする用紙)をNSと共有し、スローラーナーの支援に備える。 ※NSには映画監督のような格好をしてもらい、生徒への演技指導への意欲を示してもらう。 ※本文の内容を理解して演じているかを観察し、Reviewでの発表に繋げる。 ※生徒が英語劇を通して、母国語ではできない「ことばの気づきや面白さ」を得るよう指導する。ここでは、間の取り方、イントネーション、声の大ききで伝わり方が変わることに着目できるようにしたい。
	1. Greeting(1) 2. <b>Review</b> (3) ①全体でモデルとなるグループの発表を聞く。 ②NSのコメントを聞く。	・モデルとなるグループを指名する。	・よかった点を具体的にコメントする。	
導入	3. めあての確認(1)	人やものの様子を説明する表現を使って、スキットを作ることができる。		
	4. <b>Small Talk</b> (7) <b>(やり取り)</b> ①look+形容詞の英文を聞き、意味を理解する。 ②学校の先生方の写真を見て、表情からその理由や自分が先生のためにしたいことを考え、ペアで説明する。 ③全体で発表する。	・NSが示した写真を見て、look形容詞で説明する。 ・NSとのやり取りに生徒を巻き込む。  ・面白い英文を作っている生徒を見つけ、紹介する。  ・生徒を指名する。	・自分が撮った、学校の先生方が様々な表情をした写真を紹介する。 ・写真を見ながらJTEや生徒とやり取りをする。  ・机間指導を行い、個別に支援したり、発表を促したりする。	※NSは演劇が好きゆえに、人間観察に興味があることを伝える。先生方を題材にし、生徒の生活の論理に合ったものにする。 ※写真にマスキングを施し、生徒に余白(生徒が自己決定する場面)を残す。 ※まずは個人で考える時間を作り、その後ペアで紹介し合う。 ※look+形容詞に続く文は、これまで学習してきたdiscourse marker(but/because/so)を用いて考えるように促す。 (例)Mr.Kimura looks happy because he got chocolate on Valentine's Day. ※机間指導をしながら、生徒の英文をタイミング良く紹介する。アイデアが浮かばない生徒にはヒントを出して支援する。
展開				



5. スキット作り(31)

全体 → ペア  
→ 全体 → 個人

①JTEとNSのモデルを聞く。

②既習の形容詞を確認し、スキットで用いるものをペアで選ぶ。

③めあてを再確認する。

④マッピングでスキットの展開をペアで考え、内容を決定する。

⑤ペアでスキットを練習する。

⑥グループ内で発表を行い、グループの代表を決める。

⑦代表となった3ペアが全体に発表を行う。

⑧教師の説明を聞く。

⑨発表したスキットをノートに書く。

6. 振り返りを書く(5)

・NSとsmall talkを行う。

・黒板にマンダラートを書き、既習の形容詞を整理する。

・マッピングの例を黒板に示す。

・机間指導を行い、個別に支援する。

・机間指導を行い、個別に支援する。

・look形容詞の文の作り方と使用場面を説明する。

・机間指導を行い、個別に支援する。

・机間指導を行いな

・JTEとsmall talkを行う。

・机間指導を行い、個別に支援する。

・必要に応じて、表情やジェスチャーなど、演技のポイントを再確認する。

・よかった点を具体的にコメントする。

・机間指導を行い、個別に支援する。

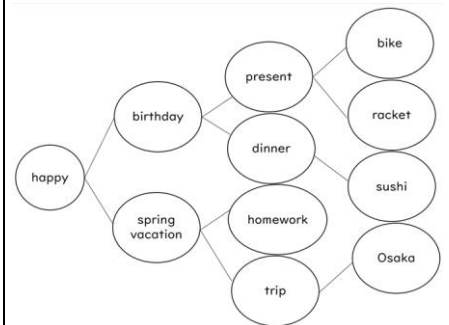
※スキット作りで生徒が幅広い場面を想起できるよう、物や2人称が主語の場合を紹介する。

・It looks wonderful. ・You look angry.

※マンダラート例

interesting	happy	sad
fun	形容詞	angry
excited	tired	sleepy

※マッピング例



※筆箱や水筒などの小道具を使って、劇をリアルに近づけるよう促す。  
※演技中の聞き方や拍手など、聞き手の態度が演者のパフォーマンスを引き出す鍵となることを生徒の声から引き出し、good listenerを育てる。

◆【話すこと(やり取り)】

look形容詞を用いたまとまりのある文章を、即興に近い形で話すことができる。

※Key Sentence

・You look happy.

・Mr. Kimura looks happy.

・It looks wonderful.

※最後にKey Sentenceについて説明することで、次の書く活動でミスをしないよう気をつけることにつなげる。

※accuracyを追求するため、ノートは回収し、教師がチェックをする。

※振り返りには、本時でできたことと

ま  
と  
め

	7. 次時の予告(1)	がらモデルとなる生徒を見つけ、発表を促す。  ・次時で扱う本文について予告を行う。	・本番の発表も楽しみにしていることを伝える。	その理由、改善点やNSへのコメントを書くよう促す。  ※Part3では、EriがKotaを持ち上げるシーンがあるので、楽しみにするよう伝える。
	8. Greeting(1)			

## 5 授業の視点

- ・マッピングを用いて、即興に近い形で話すこと(アウトプット)ができているか。
- ・表情やジェスチャーを工夫して、生き生きとスキットを演じることができているか。



資料I 用語説明

マンダラート、階層式マッピング、探求コーラル・マップは、いずれも中嶋洋一が提唱する思考ツールである。詳しくは、DVD『6-way Street 下巻』(中嶋,管,北原,久保田,田尻,蒔田/バンブルビー)中嶋の解説や、『英語教育 2024 年 10 月号』「階層式マッピング」で鍛える「思考・判断・表現」(三仙,高杉,富藤,中嶋,山内/大修館書店)を参考にされたい。

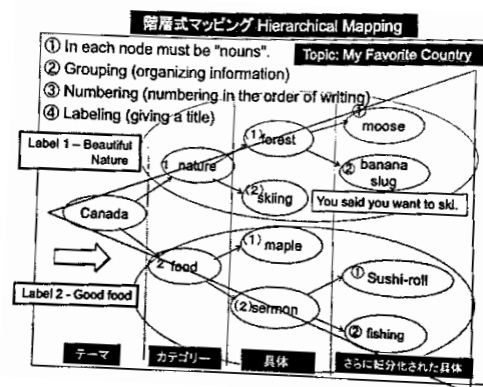
○マンダラート

9つマスを用意し、中心に最も関心のあることを書く。関連することをまわりの8つのマスに書きこんでいく。発想力を高めることをねらいとする。

Shibuya	ghost	Jack-o-Lantern
costume	Halloween	pumpkin
trick or treat	street performance	October 31 <sup>st</sup>

○階層式マッピング

従来の放射状に広げるマッピング(トニー・ブザン式)ではなく、英語の語順の様に左から右へ、それぞれの情報を階層式に広げるマッピングである。



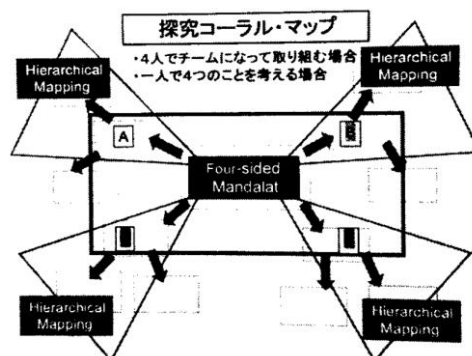
『英語教育 2024 年 10 月号』P.34(大修館書店)

○インタビュー・マッピング

思考力を鍛える即興での活動。名前がインタビュー(&)・マッピングとなっているのは、インタビュー自体が目的を持った言語活動のためである。インタビューでは、マッピング(グルーピング、ナンバリングを含む)を使って内容を整理しながら、相手の言っている内容を深堀していく必要がある。活動後には、ノート等に履歴が残るため、マッピング・シートを参考にしながら、違う友人にその内容を伝えたり、ノートにわかったことをレポートし、それをグループで回し読みをしてコメントを書き入れたりといった「つながる言語活動」にまで発展することができる。詳しくは「なかよう備忘録」2024 年 10 月 7 日「階層式マッピング」で鍛える「思考・判断・表現」と「探究しようとする意欲」を参考にされたい。

○探求コーラル・マップ

マンダラートと階層式マッピングを組み合わせたイメージである。テーマに基づいて、深めたい内容を「自己決定」(個別最適な学び)する。それぞれが制作したスライドを持ち寄り、全員でコーディネートし(協働的な学び)、ストーリーにする。



『英語教育 2024 年 10 月号』P.35(大修館書店)